



「家主さあん…  
ちよつとジロジロ見過ぎ…」

「だ…だって…せっかくの機会だし…」

「俺は別に見られてても問題ないっすよ♡」

「私は恥ずかしい……」



「ごめん…でも…」

「別にいいよお…もう…」

「ほらほら喧嘩しないでよお、  
ね、すいちゃん♡」

「むう…」

モヤ

モヤ



「……まあ喧嘩したくなる気持ちも分かるっちゃ分かるけどねえ」

「普通目の前でヤツてるとこ見せろ……なんてやべーこと言われたら別れるしなあ……」

「……それは……その……」

「……普通はね……」



「私は家主さんのこと…  
好きだから…  
家主さんが喜ぶなら…  
なんでもしたげるってだけ…」

「あ…ありがとう…ほんと…  
もう2度とこんなことさせないから…」

「彼氏が彼氏なら彼女も彼女ってわけかあ…」



「さて…と、それじゃもう  
始めちゃいますけど  
……本当に生でいーんすね？」

「あ…ハイ……  
病院でピル、貰ったんで…  
生で…お願いします…」

「ふうん……  
ほんと、すげー変態っすね…♡」



「本当だよ……  
貫う時すつごく恥ずかしかったあ……」

「ご、ごめん……でも、せつかくだし……  
こんなこと、本当、もうこれつきりだから……」

「どうせなら……生でしてるところが見たくって……」

「すいちゃんが僕以外の精液で  
孕んじやうかもって想像したら……  
それだけでもう……っ……！」



「あーはいはい、そーいうのいーんでっ」

「ぐく…」

「うう…っ！」

ズルッ

ドキッ♡

ドキッ♡

ドキッ♡



「それじゃ、ガチで孕ませるつもりで  
やっちゃいますけど…それでいっすか？」

「…は…はい…お願いします…」

「家主さん…ひどお…」



「ピ…ピル飲んでるから……!!  
妊娠しないはず…大丈夫…!!」

「…私の気持ち…  
どーだっていーんだ…」

「う……いやっ…そんな…んじゃ…」

「それじゃ、いただきますぁーす…♡」





「うお……っ♡…気持ちいい……♡  
ああ……セックスはやっぱ……  
生に限るっすね……っ♡」

「は……はあ……っ……！」

ズグ

バグ

バグ

「どお？ すいちゃん…  
彼氏のと俺の比べて…♡」

「…っ…そ…それは…  
君の方が…♡  
気持ちいいよお…♡」

「…家主さんの…ちっちゃいのより…♡  
ずっと…おつきくて…硬くて…♡」

「…やっぱ…そう…なんだ…っ…ぐく…っ…」

ニギン♡

ドキ♡

ドキ♡





「あゝそれ聞いて余計滾ってきた…っ…っ…  
中の具合もいいしマジですっから」

「う…っ…」

おっ

パッ

パッ

パッ

パッ

パッ

おっ

(こ：こんな顔見たことない：  
すいちゃん、セックスしてる時  
こんな風になることあるんだ！)

ドキ…  
ドキ…  
ドキ…  
ドキ…  
ドキ…  
ドキ…  
ドキ…  
ドキ…  
ドキ…

(気持ちよさそう…  
……あっ……やっぱ……勃起止まんない…  
で……でも……っ……シコるのは恥ずかしいし……)

ゴクッ……



(あーやばい…めっちゃ悔しい…！  
それに…凄い惨めだ…！)

(なのに…超興奮する…！)



「射精すぞ」

「……うっ……！」



おっ!!

ドキュッ

ドキュッ



ズチュッ

バチュ

ドギッ

おっ!!

おっ!!



「あ…ああ…っ…♡」

(や…やばい…中に出されたのが…  
く…悔しすぎて…  
自分でそう仕向けたのに…)

ドグン…♡

ドク♡

ドク…♡

ドプ…♡

ドキ  
ドキ  
ドキ

「気持ちよかったア〜…」

(触ってないのに…  
射精しちゃった…)

ブルブル…♡

ドロ〜♡

ハハハ

はー♡

はー♡





「…あれ？」

「……もしかして…  
射精しちゃいました…？」

「…は…はい…」

「くく……カップル揃って…」

「どーしようもないマゾっすね…w」



それからというもの、

彼は執拗に何度も何度も…

僕の彼女に中出しをした。

やめてくれ、と懇願してもやめることはない。

日にちが変わる頃になって、

ようやく彼は彼女を手放してくれた。

彼がいなくなった部屋で、

彼の精液に塗れた彼女を抱きしめて  
もう寝取らせなんてしないと誓った。

それでも僕は……

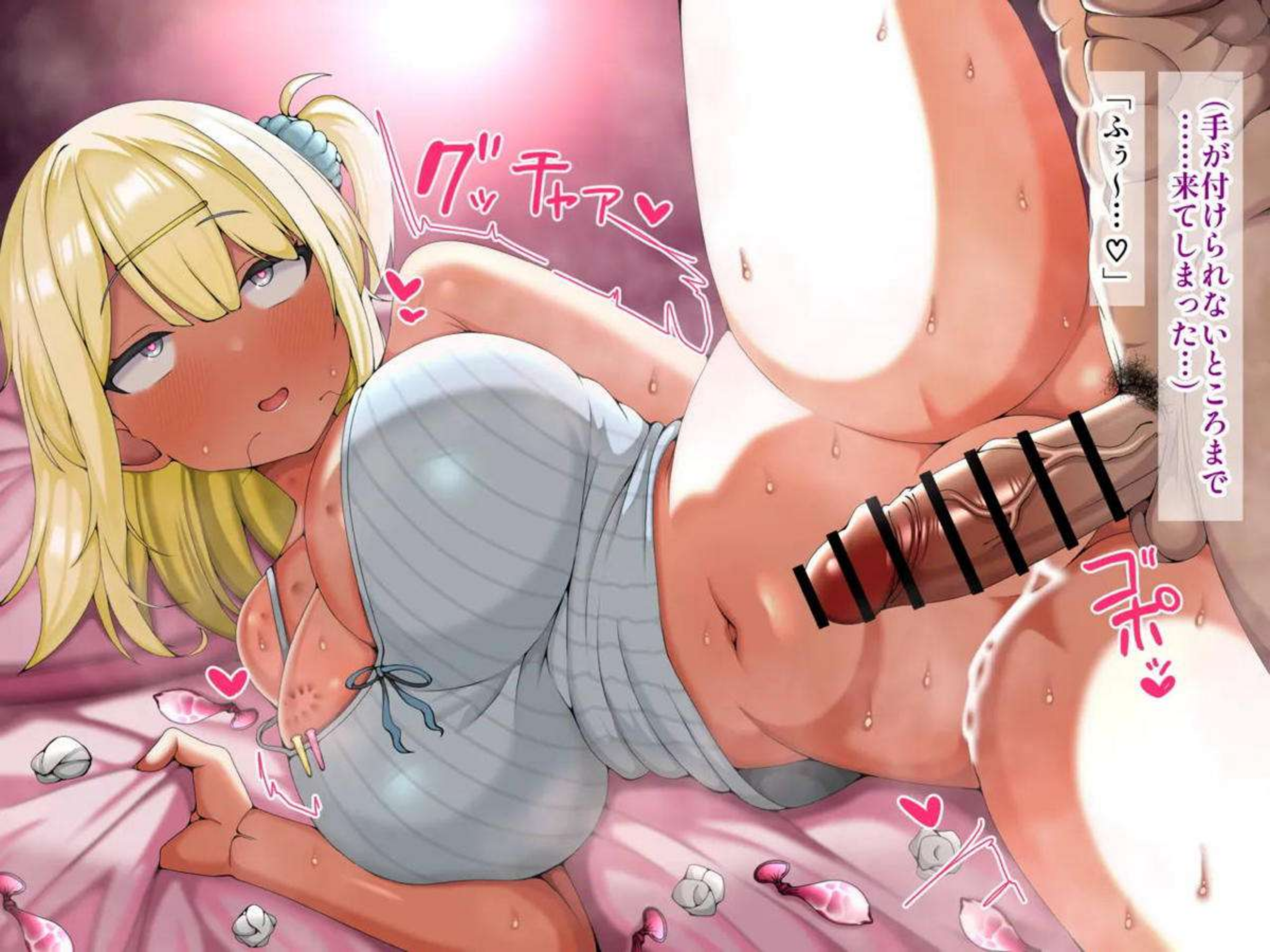
また、彼女を寝取らせてしまった。

触れずに射精した時に感じた痛みと快感。

あれをまた、感じたくて…

何度も、何度も、何度も、何度も…

そして…



グッチャア♡

「ふう〜…♡」

(手が付けられないところまで  
……来てしまった……)

グモ♡



ニロ  
♡

「気持ちよかったよ……♡  
……『家主さん』♡」  
「ん……？……俺も♡」

「あ……君も気持ちよかった……？」

「う……うん……！  
見せてくれて……ありがとう……  
……すいちゃん……♡」

ドキッ……  
ドキッ……

ズ……



「じゃ出した物掃除して、先帰っててね  
…また後で報告してあげるから」

「……く……  
お、お疲れ様っす…w」

「……はい……っ……」



彼女はもう、僕のことを

『家主さん』とは呼ばなくなった。

悔しいし、悲しいけど、それでもいい...

それでも.....彼女は僕を気持ち良くしてくれるから.....

.....  
ポニッ♡



